

## 防災 の知識を 建築士 の新たな強みに！

これからはきっとこんなひとが求められる

何をどう伝えるか

ハザードマップから重要な情報を抽出し 説明力で備えを促せる

リスクを共有 メンテナンスだけじゃない 発災時にも頼りになる存在として信頼関係を構築できる

“安心”をデザイン もしもに備え、減災の視点で 安心・安全を提供できる

### 今、建築士に求められる“防災のチカラ”

- 知識で被害を抑える → 自然現象だけでなく、知識や情報格差が被害を左右する
- 見えない不安に寄り添う → クライアントの潜在的不安に防災力で対応する
- “災害への安心”もデザインする → 建築士の新たな役割として重要性増加中！

### クライアントの不安を“そなえ”に変える

- 怖さを「行動するエネルギー」に変換する
- 正しく怖がり、具体的な備えへと導く
- 建築士の説明力で、クライアントの防災意識を育てる

### ハザードとリスク…違いを説明できますか？

- ハザード → 自然現象そのものの危険性
- リスク → ハザード × 「建物特性 / 人の個性・活動等の影響」
- ハザードマップ → ハザードを可視化した地図

### ハザードマップの注意点…ハザードマップには限界がある

- 過去のデータや想定モデルに基づく → 現実の災害と完全一致するとは限らない
- 想定外の可能性 → 予測を超える災害の発生リスク
- 専門知見との組み合わせ → マップを過信せず様々な知見や情報との統合が必要  
\*「現時点でマップ化されていないハザードの存在の有無」にも考慮する必要あり

### ハザードマップ取得方法…普段から使い慣れておくことが大事

- 紙ベース → 自治体担当窓口や公民館などで配布
- 自治体Webサイト → 自治体の担当部署ページからダウンロード
- GIS（地理情報システム） → スマホでも見やすい手軽さ（おススメ！）  
\* 3D都市モデルを活用した立体的なハザードマップを公開する自治体も増加中

国土地理院

重ねる  
ハザードマップ



### ハザードマップの仕事での活用例

マップ作成にあたっての前提条件を必ず確認！

#### 色分けの意味や具体的な数値を正確に読み、設計に反映する

- (例) 『ここは最大〇〇cm浸水する想定なので…  
・基礎を高くしています・エアコン室外機の置く場所を高くしています  
・コンセントの位置を浸水想定高さよりも上に設置しておくと安心ですよ』 …etc.

#### 避難に必要な時間軸や行動を考慮した設計を提案する

- (例) 『ここは津波到達まで〇〇分という想定なので…  
・勝手口から出て、このルートで避難すれば避難所まで 分で行けそうです  
・最悪の事態を想定して、タラップで屋根上に上がる設計にしています』 …etc.

#### 建築士の視点で、クライアント自身の備えの実践につながるプラスを提案する

- (例) 『各部屋の収納に、備蓄品や非常持ち出しリュックを収納するスペースを確保しました』  
『ワンちゃんとお散歩しながら、危険な場所などがないか見てみてください』 …etc.